

群馬の畜産

みんなの情報室

第 308 号

発行日 平成23年 3月

(社)群馬県畜産協会 前橋市亀里町1310／電話027(220)2371／FAX027(220)2372／発行人 奥六 功男
群馬県畜産協会ホームページ <http://www.chikusankyokai.or.jp/>

オーエスキー病のこれまでの取り組みと今後の方針

群馬県農政部畜産課

群馬県でのオーエスキー病（以下ADと略す）の発生は、昭和62年に初めて確認され、その後、吾妻、利根地域を除く各地域にまん延しました。そのため、県では群馬県AD病対策要領を平成3年7月16日に制定して防疫対策を推進してきました。その後、平成18年度に策定した「群馬県農業振興プラン2010」において、平成22年までに全頭のADワクチン接種を目標に掲げ、清浄化に向けての計画を提示しました。

平成20年度以降は、県内全農場の野外抗体保有状況を把握する必要があったため、各農場での採材のほか県内、県外のと畜場出荷豚の採材を行いADの浸潤状況を調査してきたところです。

また、ADワクチンにあっては、平成3年9月から平成10年3月までgⅢ欠損ワクチンを用い、平成10年4月1日からgⅠ欠損ワクチンに変更し、その後平成15年6月1日からオイルアジュバントgⅠワクチンを追加してきました。さらに平成20年12月から指示書によるワクチン接種も可能とするなど、生産者からの要望を踏まえながらAD対策に取り組んできました。

ワクチン接種頭数は、平成10年から平成17年までは、平均約60万頭前後で推移していましたが、平成18年以降ワクチン接種頭数が増加し、平成21年では約100万頭に近い接種頭数となりました。それに伴い出荷豚の野外抗体陽性率も徐々に減少し、平成22年度は出荷豚の約5%となっています。

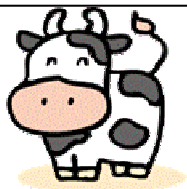
また、野外ウイルス浸潤地域の推移は、平成20年次19地域、平成21年次13地域、平成22年次7地域となり、着実にAD清浄化が進んでいる状況であります。特に平成22年次の野外ウイルス浸潤地域では、中部と東部地域の28農場でADウイルスの動きが確認されましたが、平成22年次後半には、28戸中の15戸でウイルスの動きが安定してきている状況です。

今後の方針としては、AD清浄化達成に向けて、引き続き抗体検査を実施し、その結果に基づいたワクチン接種を実施する予定です。特に肥育豚に野外陽性豚が認められる農場では、飼養衛生管理を見直しながら全頭のワクチン接種を推進し、繁殖母豚のみに野外抗体が認められる農場では、母豚のワクチン接種、とう汰更新を進めることとしています。さらに、野外抗体が認められなくなった地域では、ワクチン接種の中止に向けてADの清浄性を確認するため、順次繁殖豚全頭の野外ウイルスの検査を実施し、清浄化地域となるよう取り組みたいと考えております。

いずれにしても、国が全国のAD清浄化達成目標を平成24年12月と設定していることから、その期限までに1日でも早い本県のAD清浄化を達成したいと考えています。そのためには、生産者、関係団体、行政機関が一体となった取り組みが必要でありますので、生産者のご理解はもとより、引き続き関係者のご協力、ご支援を賜りたくお願いいたします。（家畜衛生係長 補佐 木暮幸博）

目 次

●オーエスキー病のこれまでの取り組みと今後の方針・・・	1	●高病原性鳥インフルエンザ防疫研修会を開催		6	
●平成22年度酪農婦人講演会開催		2	●平成23年度畜産関係重点事業概要(群馬県)		7
●平成22年度畜産大賞に田園プラザを推薦		2	●各種畜産物価格差補てん事業について		8
●肉用牛合同研修会、「TPP」畜産合同研修会開催		3	●畜産試験場が紹介する新技術について		10
●中央畜産会主催 海外調査研修		4	●乳用牛アニマルウェルフェア研修会が開催		12



平成22年度酪農婦人講演会開催

平成23年2月8日、群馬県乳牛改良協会主催の酪農婦人講演会が、前橋市にあるプラザワン問屋町センターで開催されました。本講演会は毎年開催されており、県内の酪農家のご婦人方を招き講演会および懇親会を行っています。

今年度は、75名のご婦人に参加いただき、埼玉県酪農協会会長の青木雄治氏を講師に招き、「我が酪農人生」という演題でご講演いただきました。講演では、埼玉県の住宅地で利根川の河川敷を活用して、乳牛の改良と自給飼料の生産に取り組んできた青木氏の半生を紹介し、参加したご婦人方も熱心に聞き入っていました。

講演後には、昼食を交えて懇親会を行い、県内中の参加者で盛んな交流が図られました。



講師の青木雄治氏



多くのご婦人が集まった講演会



平成22年度畜産大賞に田園プラザを推薦



去る1月28日、中央畜産会主催の平成22年度畜産大賞業績発表・表彰式が開催されました。本催しでは、全国の畜産の経営・地域畜産振興・研究開発のそれぞれの分野で取り組まれている活動のなかから、特に優秀な事例について「畜産大賞」として表彰しています。

今年度、群馬県からは利根郡川場村にある道の駅「田園プラザ」を地域畜産振興部門で推薦しました。田園プラザは、敷地内に「ミルク工房」や「ミート工房」などの加工施設を有し、地域内で生産された生乳や豚肉を使用して川場村ブランドの飲むヨーグルトやソーセージを製造・販売しています。これらの商品は田園プラザの看板商品として、川場村のむらづくりに貢献すると共に、村内農家の誇りとして畜産の発展に寄与しています。このような地域内の畜産振興への取り組みが評価され、群馬県の優秀事例として推薦されることとなり、優良賞を受賞しました。



(左：川場村長、右：本会常務)

本県で推薦した過去の事例は群馬県畜産協会HPでご覧

いただけます。(畜産大賞HP：<http://www.chikusankyokai.or.jp/project/grandprix/index.html>)

「TPP」畜産合同研修会 開催

平成 23 年 3 月 7 日に群馬県 JA ビル 1 階大ホールにおいて、(社)群馬県畜産協会など 8 団体により環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)に関わる畜産合同研修会が行われ、県内の畜産関係者 289 名が参加しました。この研修会は、東京大学大学院教授鈴木宣弘氏を招き、「TPP と我が国の畜産への影響について」というタイトルで講演されました。鈴木氏は、TPP 及び FTA (自由貿易協定) に関わる実情、TPP 導入した場合の国内の畜産業への影響、現在の制度を利用して具体的な数字を用いた試算、国内の畜産業を強化するための消費者の理解醸成などについて、わかりやすくかつ熱く語られました。参加者からは質問も多く、TPP の導入による影響について学ぶ有意義な研修会となりました。



講師の鈴木宣弘氏



熱心に聞き入る参加者

肉用牛合同研修会 開催

平成 23 年 3 月 4 日群馬県 JA ビル 1 階大ホールにおいて、(社)群馬県畜産協会等 6 団体の共催による肉用牛合同研修会が開催され、群馬県内の和牛繁殖農家、肥育農家など計 214 名が参加しました。この研修会は毎年 3 月に行われており、群馬県内の和牛生産技術の向上に一役買っています。

第 1 部では、県内の繁殖和牛の育種価評価、(社)家畜改良事業団の種雄牛紹介が行われました。

第 2 部では、全農ミートフーズ(株)の寺島豊明氏より「俵牛づくりに挑戦しよう」というタイトルで、牛肉相場の動き、過去 3 年の枝肉データを用いた分析、枝肉の上物率(A4・A5の割合)を上げるための肥育技術、血統面からみた枝肉成績などが講演されました。肥育農家のみならず、素牛を供給する和牛繁殖農家も熱心に聞き入っていました。

第 3 部では青森県の工藤家畜診療所の工藤洋一氏より「繁殖技術の奥義」のタイトルで、発情の発見、分娩後の発情回帰の対策、繁殖和牛の管理方法等が講演されました。工藤氏は、発情から種付けまでのポイントを替え歌にして歌い上げ、会場を盛り上げつつ、わかりやすい説明を行い参加者があちらこちらで熱心にメモを取る姿も見られました。



全農ミートフーズ(株)寺島氏

中央畜産会主催 海外研修・調査報告

ドイツ・デンマークにみる畜産経営支援サービス調査研修の概要を報告します。

生産振興部 桃沢 洋二

「目的」 ドイツ、デンマークにおける経営・技術指導及び情報サービスの具体的な実施内容の調査研究

「期間」 平成 22 年 10 月 23 日から 11 月 6 日(移動日を含め 13 泊 15 日間)

「訪問国」 ドイツ共和国連邦(ニーダーザクセン州)・デンマーク王国(コペンハーゲンとオーフス)

10月24日(1日目):「アラ・ライネ・タール」

この団体は州の補助を受け、村の活性化に力を入れている。ここは、8つの村を1つにし、農村地帯の過疎化を解消するために、村民からアイデアを募り、古い建物をリノベーションしたり、農村を利用したツールド(サイクリング)客を集客したり、休耕地を利用し風力発電を整備したりと色々な事に取り組んでいた。また、何かイベントを開催する時は、ボランティアで市民が協力する体制であった。

10月25日(2日目):「州農業会議所・都市事務所支所」

この団体は、各農家が会費を納め、運営を行っている。環境に配慮をしているため、乳牛を飼養するにも権利を購入する必要がある。また、土地の購入や、豚等でも、飼養頭数に応じた農地が必要となる(EU の政策)。これを解消するために、農家との交渉やアドバイスを行う。また、インターネットや雑誌を利用した、情報の提供を行っている。午後は、この団体に支援されている 300 頭を飼養する酪農家を訪問したが、ここでは、ドイツでも稀なミルクプラントを所有し、自家販売ルートを確認している。



10月26日(3日目):「州農業会議所」

この団体は農業政策の普及を業務とし、担当者から話を伺う。州には 5 万戸の農家がありそのうち、54%は専業農家。1戸当たり平均 53h の土地を所有している。また、ドイツの中でもいちばんの畜産地帯で、養豚が一番多く、次いで乳牛、肉用牛、鶏肉、採卵鶏の順であった。動物が住みやすい環境を推進している。

10月27日(4日目):「Vit(家畜個体情報センター)・マスターリンド(牛畜産農家組合)」

Vit は日本で言えば、個体識別センターの様な組織で、牛群検定情報、AI 情報、血統情報、ゲノムを利用した雄牛の選抜等の色々な情報が組み込まれている個体識別情報を管理している。マスターリンドは、種雄牛の飼養・選抜、血統登録、Vit の情報を利用した AI 業務(繁殖交配指導)を仕事としている。

10月28日(5日目):「マスターリンド支援農家2戸」

1戸目はホルスタイン種 150 頭を搾乳する酪農家で 4 人のオーナーで経営をしている。経営形態の相談等は州農業会議所にしており、飼養関係については、マスターリンドに相談している。問題がある場合は、担当者呼んで解決するまで話し合いを行う。

2戸目はシャロレイ種(肉用種)を飼養する繁殖農家。この農家は、兼業農家で、父と娘で経営している。父は昼間トラックの運転手をし、娘は母が経営するレストランも手伝っている。ショウにも参加し、去年はよい成績だった。また、繁殖について、マスターリンドから情報を受けている。

11月1日(9日目):「デンマーク農業食品理事会」

この団体で、国内の状況の説明を受ける。デンマークの国土の60%が農地で、輸出の20%は農業分野、生産量の2/3が諸外国へ輸出されている。そのなかで一番多いのが、養豚で次いで、酪農、肉牛の順である。



11月2日(10日目):「デンマーク農業食品理事会」

この団体はデンマークの支援指導事業を実施しており、下記項目について授業形式で説明を受ける。

- ① センターの概略 ② 31の地域センターと内容 ③ 家畜データベースについて
④ グローバルキャップについて ⑤ WEBとITについて ⑥ 教育開発について

11月3日(11日目):「地域センター」

デンマークで農業経営を行うには、大学へ行き、所定の学位を取得していないと従事できない。こちらは、新規農業者に対して、支援(コンサルタント)を行っている。起業資金の貯蓄から、物件探し、規模拡大の相談等を行う。また、農業分野だけではなく、建築業のコンサルタントも行う。社員は300名で顧客数は農業分野で約6,000件、建設業分野等で700件。

地域センター支援農家訪問。(酪農家)ホルスタイン種200頭を搾乳ロボット搾乳機3機。農地300ha自給飼料としているが、堆肥の散布(法律で3月から8月の間だけ散布可能)や飼料(サイレージ等)の作付け等は外注をしている。最初は40頭から始め、現在に至り、会計等、その都度、コンサルタントに相談・サポートを受けている。繁殖についても相談をしており、その都度、コンサル料を支払っているが、サービスに不満はない。



11月4日(12日目):「オーフス大学(農業科学部リサーチセンター)」

オーフス大学は9学部からなる大きな大学である。

大学では、リサーチ機関を置き、研究・調査の成果を若い人たちに伝達する役割と、農家やデータを必要とする人達への情報提供を行っている。

また、世界一と誇れる、バイオガスの研究施設があり、各国の研究機関や企業と提携し、研究を行っている。



「参考となる事項」

- ・ 日本では色々な団体があるが、1つの団体に相談をすれば解決する。社内でも横の連携が取れていること。
- ・ 補助金をあてにするのではなく、自立した経営を実践していること。
- ・ 相手の立場に立った考え方。(情報の提供など)
- ・ 各支援団体が、農家に直接サービスを行っていること。
- ・ 充実したサービスを受けるために、農業者が自ら会費等の費用を納めていること。

高病原性鳥インフルエンザ防疫研修会を開催

(社)群馬県畜産協会主催の「高病原性鳥インフルエンザ防疫研修会」を 2 月 1 日(火)前橋市亀里町の J A ビル大ホールにおいて開催しました。参加者は県内外の生産者や行政機関をはじめ、関係する団体などから 200 名を超える多くの方が参加して行われ、参加された皆さんは熱心に講演に聴き入っていました。

午前中おこなったお二人の講師による講演は、日本で 79 年ぶりに発生した時に、国内発生 3 例目となった京都府の養鶏場を管轄する家畜保健衛生所の



当時の所長で、後に畜産課長に就任した現 京都府畜産振興協会の地協準一専務理事で、「京都で発生した鳥インフルエンザの概要と埋却物の最終処理について」の演題でご講演いただき、発生時の初動防疫措置や埋却作業、養鶏農家への損失補填などについて詳しく説明していただきました。また、本邦初となる、埋却処分した鶏を掘り出して最終処分するまでの厳しい対応について、講演いただきました。

次いで、国内発生以来連日マスコミに登場するように



なった、高病原性鳥インフルエンザの第一人者である現、京都産業大学の大槻公一教授には「高病原性鳥インフルエンザの国内外での防疫体制について」と題して、ウイルスの特徴や疫学的な考察により、国内進入経路についてお話していただきました。

また、午後おこなわれた演習では、防護服の専門メーカーであるアゼアス(株)の担当者の指導により、会場の全員による防護服の装着実演をおこないまし



た。その後、全員が駐車場に移動して、ペストコントロール協会の指導により車両消毒の実演実習をおこないました。車両は大型車の飼料運搬車とライトバンで、実戦さながらの真剣な表情で、講師の指示に従って代わるがわるの消毒演習をおこないました。



地域と調和した生産性の高い畜産経営の確立をめざす！！

県では、新たに平成 27 年度を目標とする「ぐんま農業はばたけプラン」、「酪農・肉用牛生産近代化計画」、「家畜改良増殖計画」を定め、豊かで活力のある農業・農村の実現に向けて、畜産生産基盤と経営体質の強化により、畜産経営の安定を図り、安全な畜産物の安定的な供給を担っていくために各種施策を実施します。

平成 23 年度畜産関係重点事業概要（群馬県）

◎粗飼料自給率向上対策

【金額 8,232 千円】

対策のポイント

国産飼料の一層の生産と利用を拡大するため、自給飼料の収穫調製業務を請け負う畜産コントラクターの早期育成を図り、資源循環型の飼料基盤に立脚した力強い畜産経営を確立します。

＜主な内容＞ 1. 県域コントラクター支援 2. 地域コントラクター支援

【お問い合わせ先：農政部畜産課飼料牧野係 027-226-3109（直通）】

◎優良自家産後継牛確保対策

【金額 5,200 千円】

対策のポイント

自家育成により優良な乳用後継牛を円滑に確保するため、性別別精液の利用を推進し、県内酪農家の牛群のレベルアップを図ります。

＜主な内容＞ ・県内酪農家の乳用後継牛を自家生産方式に誘導するため、確実に高能力が期待できる乳用雌子牛が生まれる性別別精液の利用を支援します。

【お問い合わせ先：農政部畜産課畜産振興係 027-226-3106（直通）】

◎家畜排せつ物臭気対策

【金額 26,000 千円】

対策のポイント

畜産経営に起因する苦情の約 7 割を占める悪臭問題を改善するために、県等で開発した脱臭装置やその他の臭気対策資材の導入を補助し、周辺地域の生活環境の改善に努めます。

【お問い合わせ先：農政部畜産課畜産環境係 027-226-3114（直通）】

◎畜産物価格安定推進

【金額 38,000 千円】

対策のポイント

肉用牛肥育・養豚の経営安定対策事業への加入を促進することにより、意欲あるすべての生産者が将来にわたって経営を継続し、県民に安全安心な県産食肉を提供できる環境を整備します。

＜主な内容＞ 1. 肉用牛肥育経営安定特別対策事業の生産者積立金の一部補助
2. 養豚経営安定対策事業の生産者積立金の一部補助

【お問い合わせ先：農政部畜産課企画経営係 027-226-3103（直通）】

◎県産農畜産物ブランド力強化対策事業

【金額 40,000 千円】

対策のポイント

県内関係団体で構成する群馬県農畜産物販売戦略協議会を中心に、消費者・実需者の視点を重視した販売戦略を展開し、県産農畜産物のブランド力を高め、販売競争力の強化を図ります。

＜主な内容＞ 1. 情報の収集及び活用 2. 戦略的な広報・PR 3. コーディネート

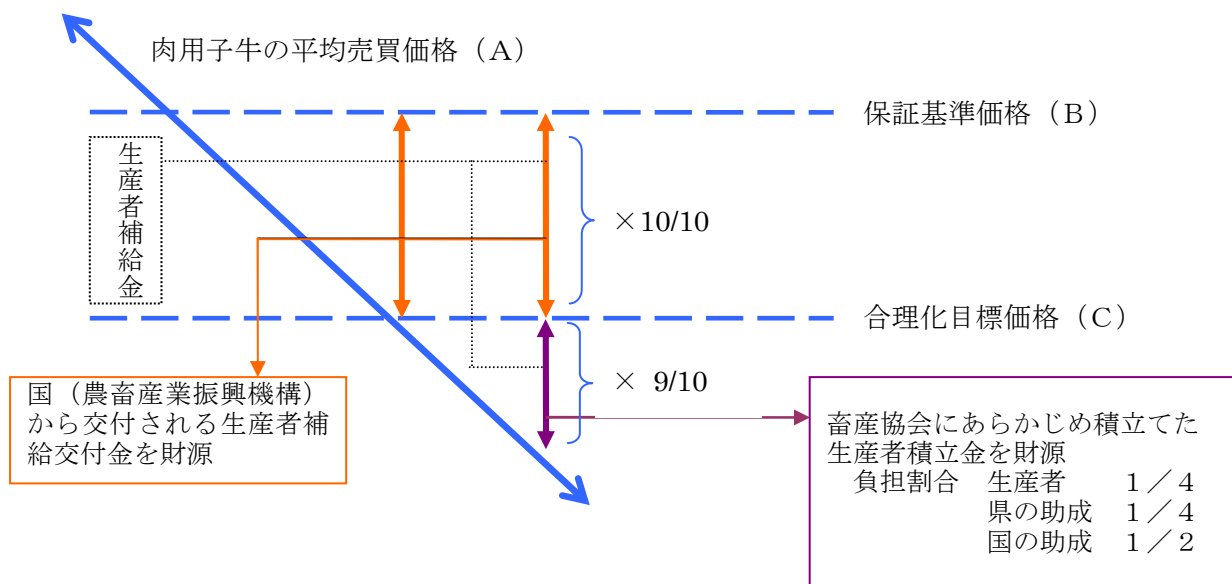
【お問い合わせ先：農政部畜産課ぐんまブランド推進室 027-226-3129（直通）】

肉用子牛生産者補給金制度



【事業の概要】

肉用子牛価格が低落し、四半期ごとの平均売買価格が保証基準価格を下回った場合、その期間中に販売、自家保留した契約肉用子牛に対して生産者補給金を交付します。



【事業の実績（平成 23 年 3 月現在）】

(単位：円、頭、戸)

対象期間	品種区分	交付単価	対象頭数	交付金額	交付対象者	交付日
平成 22 年 10～12 月	その他の肉専用種	80,360	0	0	0	2 月 22 日
	乳用種	28,900	550	15,895,000	17	
	計	—	550	15895,000	17	

肉用牛繁殖経営支援事業



【事業の概要】

肉用子牛の四半期毎の平均売買価格が発動基準を下回った場合、当該四半期に販売または自家保留された肉用子牛を対象として、発動基準を下回った額の 3 / 4 を交付します。

【事業の実績（平成 23 年 3 月現在）】

(単位：円、頭、戸)

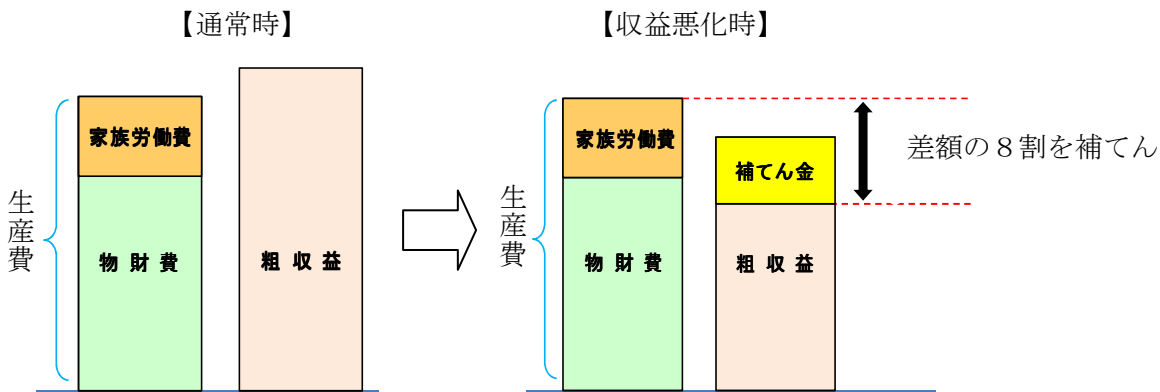
対象期間	品種区分	交付単価	対象頭数	交付金額	交付対象者	交付日
平成 22 年 10～12 月	褐毛和種	24,100	0	0	0	交付なし
	その他の肉専用種	34,500	0	0	0	
	計	—	0	0	0	

肉用牛肥育経営安定特別対策事業（新マルキン）



【事業の概要】

肉用牛肥育経営の安定を図るため、四半期毎の肥育牛一頭当たりの粗収益（全国平均）が生産費（全国平均）を下回った場合に、生産者の拠出と国の助成により造成された基金から、粗収益と生産費との差額の 8 割を補てん金として交付します。



【事業の実績（平成 23 年 3 月現在）】 （単位：円、頭、戸）

対象期間	品種区分	交付単価	対象頭数	交付金額	交付対象 契約者数	交付日
平成 22 年 10～12 月	肉専用種	—	—	—	—	2 月 28 日
	交雑種	31,700	4,047	128,289,900	174	
	乳用種	57,000	795	45,315,000	19	
	計	—	4,842	173,604,900	193	

養豚経営安定対策事業(全国肉豚)



【事業の概要】

養豚経営の安定を図るため、豚枝肉平均価格が生産コストに相当する保証基準価格(460 円/kg)を下回った場合に、生産者の拠出と国の助成により造成された基金から、差額の 8 割を補てん金として交付します。

【事業の実績（平成 23 年 3 月現在）】

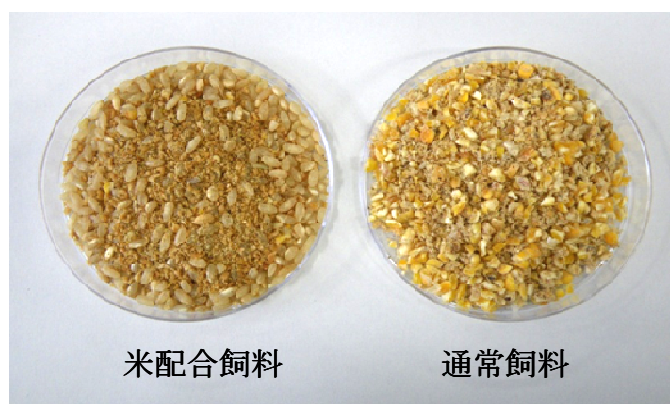
	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期
枝肉全国平均価格（円/kg）	448	446	446
補てん金単価（円/頭）	730	860	860
補てん対象肉豚頭数（頭）	158513	151,703	182,241
補てん金交付額（円）	115,714,490	130,464,580	156,727,260
補てん金交付日	8 月 31 日	2 月 28 日	2 月 28 日

新技術**飼料用米は肉用鶏飼料のトウモロコシを全量代替できる**

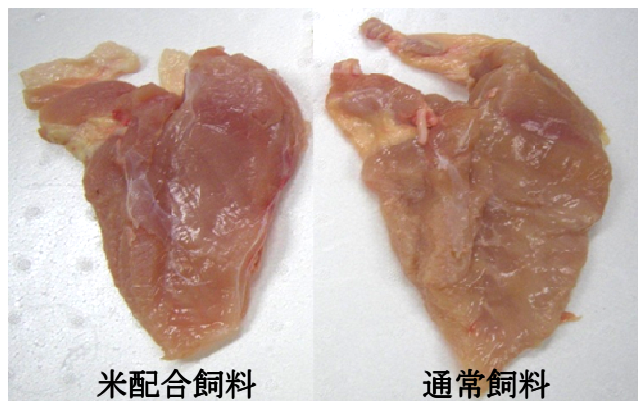
国産肉用鶏種の「はりま」に飼料用米の玄米をトウモロコシ(飼料の2/3配合)の代替として給与し、生産性及び鶏肉品質への影響について明らかにしました。



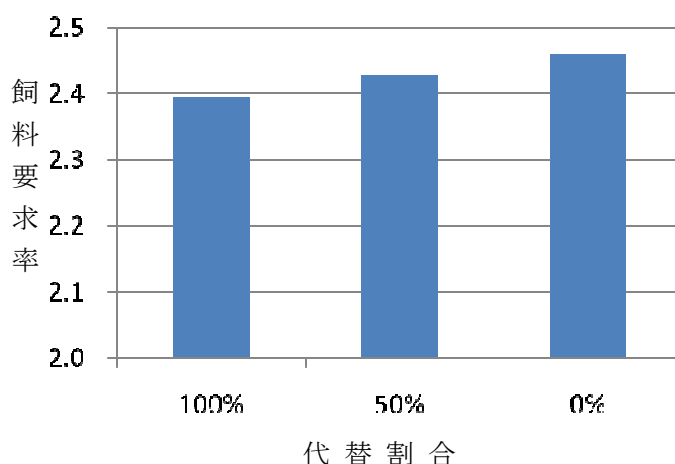
「はりま」は群馬県で年間約 100 万羽生産されています。



飼料用米の玄米はトウモロコシと栄養価が似ているので全量を代替できます。



肉や脂肪から黄色みが減り、鮮やかな肉色になります。また、脂肪酸のオレイン酸が増え、食味も向上します。



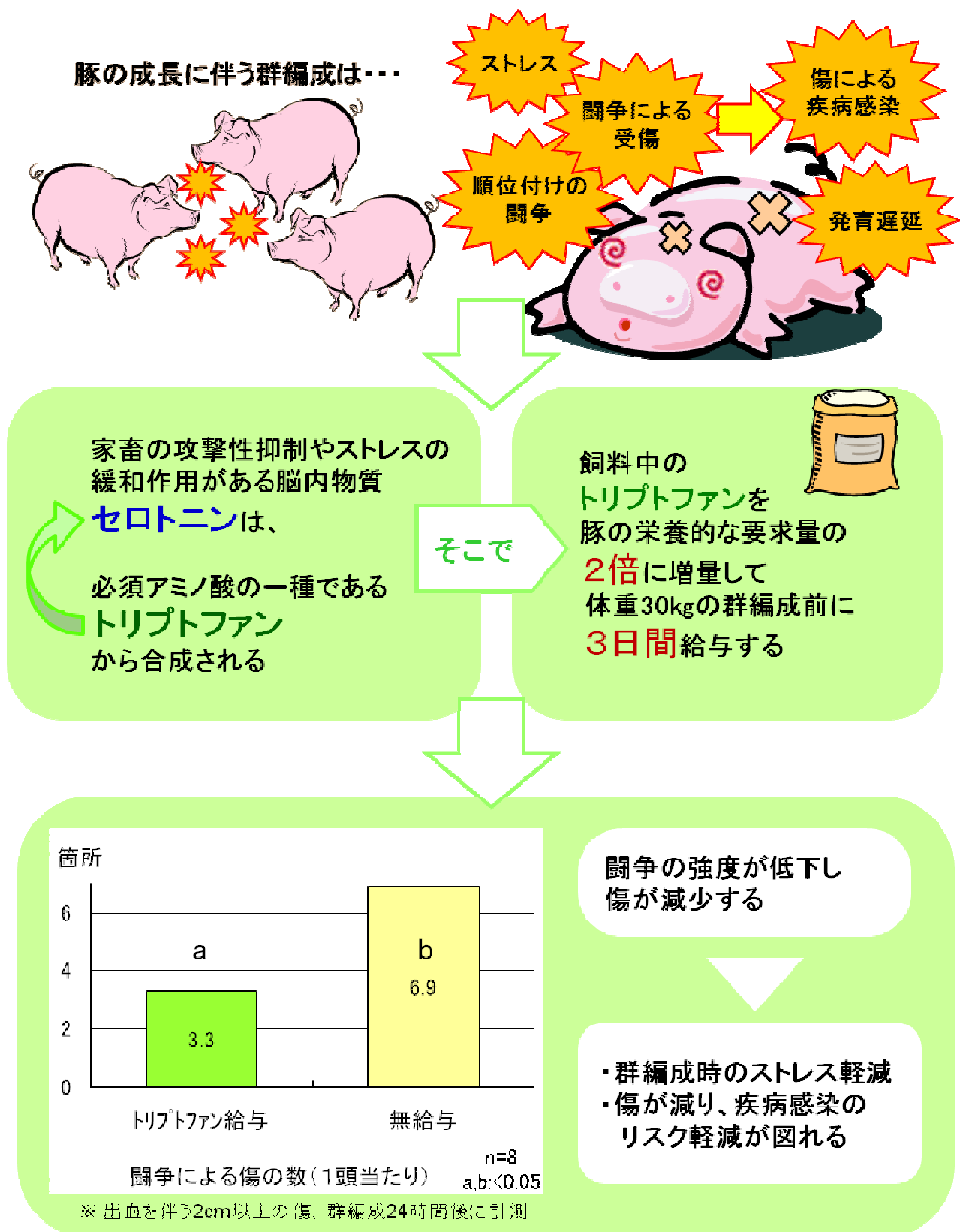
飼料効率はトウモロコシと同等以上の成績です。

飼料用米は鶏肉の差別化・高付加価値化に活用できます。

問い合わせ先：畜産試験場 中小家畜係 TEL：027-288-2222

新 技 術

トリプトファンの給与による豚群編成時の闘争低減



乳用牛アニマルウェルフェア研修会が開催されました

群馬県畜産技術連盟は3月10日、群馬県畜産試験場研修棟において家畜の飼養管理指針におけるアニマルウェルフェア（快適性に配慮した家畜の飼養管理）の考え方を普及することを目的に研修会を行いました。

研修会は農林水産省の黒崎和美係長がアニマルウェルフェアの考え方に対応した家畜の飼養管理指針について、海外の動向や国の取り組みを紹介しながら分かりやすく説明いただきました。引き続いて、信州大学農学部竹田謙一准教授が海外と日本におけるアニマルウェルフェアの取り組み状況を説明されました。この取り組みについては、長期的には生産コストが上昇しても畜産物の付加価値を上げることで取り戻すことが出来るとされました。また、畜産は生産者と消費者の間が遠いことから、国際的な動向や国内の実態を踏まえ生産者が対応する必要性を説明しました。



両講師が講演後、木村容子氏の進行により参加者との間で意見交換し、熱心な質疑応答が行われました。生産者へのアンケートで、支援対策があればアニマルウェルフェアに対応した整備をしたいとする農家が6割近くあるという結果が印象に残っています。

畜産カレンダー

月 日	内 容	対 象	開催場所	主催
5 月 17 日	種豚ゴールデンショー	生産者・関係団体	渋川子牛市場	群馬県養豚協会 種豚生産者部会
6 月 2 日	群馬県肉豚共進会	生産者・関係団体	群馬県食肉卸売市場	(社)群馬県畜産協会

〈南関東4競馬場開催日程〉

(2011年3月～2011年4月)

3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
開催場	川崎	川崎	川崎	川崎			大井	大井	大井	大井	大井			船橋	船橋	船橋	船橋	船橋			浦和	浦和	浦和	浦和	浦和			大井	大井	大井	大井
4月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
開催場	大井			船橋	船橋	船橋	船橋	船橋			川崎	川崎	川崎	川崎	川崎			大井	大井	大井	大井	大井			浦和	浦和	浦和	浦和	浦和		

〈地方競馬全国協会からのご案内〉

『地方競馬の馬主になりたい!』という方は地方競馬全国協会までご連絡ください。

地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。

なお、地方競馬の馬主情報については、[地方競馬情報サイト](http://www.keibago.jp/)(<http://www.keibago.jp/>)でもご覧になれます。

(担当: 審査部登録課 電話 03-3583-2142)

編集後記



長男が高校受験を迎えた。正月明けの1月上旬から私立受験が始まり公立が3月上旬、長い3ヶ月であった。自分で受験した方がよっぽど楽である(?)。親になって、初めて両親の苦勞を感じることができた。ここで一句、「子に託す 期待と不安 初受験」(真下 理絵)